

彗星を名前や形状で占う（唐開元占経巻88より抜粋した。）

編）作間幸太郎 山口県山口市

（1）AD236の彗星

洛書摘亡辟に言われているのは、3つの彗星が同時に出現するときは、天下に男性の数が少ない。

春秋元命包に言われているのは、4つの彗星が同時に出現すれば6人の有力な王侯が死ぬ。

荊州占に言われているのは、彗星が4つ出現して天を移動すれば、皇帝が死ぬ。

（2）AD287の彗星

石氏に言われているのは、彗星が西南に出現した場合、これは元來星の部類に入り、一般には彗星とよばれる。さらに尾の長さが20度から30度になると掃星と言われる。この星が出現した分野の国では、大戦争が起こり將軍や大臣が死んで君主が政治に苦勞する。

晋書に言われているのは、彗星が西方に出現し、その尾の長さが20度から30度ならば槍星と呼ばれる。この星の出現した分野の国では大きな土木工事が起きる。

荊州占に言われているのは、彗星が夕方出現すれば、分野に当たる国は他国からの侵略を受ける。

（3）AD302の彗星 占いは行われなかった。

（4）AD365の彗星

文選注漢書に言われているのは、孛星、彗星、長星の3種類の星は、星の形状も、それぞれの星の占いの内容もあまり違いはないようである。ただし（中略）長星はその光芒が一定の方向を真っ直ぐに指すもので、場合によっては天をまたいで反対側に届くこともある。そんな時光芒の長さは100度から120度と変化する。

海中占に言われているのは、尾の長さが、100度以上になると9年もの間、災いが繰り返り起きる。

荊州占に言われているのは、彗星が見えている期間が長ければ、災いの程度も大きい。

黄帝占に言われているのは、彗星や孛星が星宿に異常に接近して100日以上が経過すれば、期間が3年以内の災いが起きる。150日以上が経過すれば、期間が5年以内の災いが起きる。200日以上が経過すれば、期間が7年以内の災いが起きる。

（5）AD422～423の彗星

彗星図に言われているのは、はまびしの形をした星が出現すれば天下に旱魃が起こり、5百里にわたって草が生えず、土地が丸裸になる。この時2つの彗星が同時に見えていて、その頭部には棘のような角が5つある。

春秋考異郵に言われているのは、彗星の頭部にある棘のようなものは、天帝の首都を指し示していて、悪を犯した者を罰し、善をなした者を助けるために、偏見を捨てて犯罪を捜査する道具だ。